

# ドイツにおける脱原発と再生可能エネルギー拡大:基本枠組みとしての社会的市場経済

日本大学商学部  
桜井 徹

# 目次

- I. 脱原発と再生可能エネルギー拡大の実際
- II. 脱原発と再生可能エネルギー拡大政策の2回の画期
- III. 枠組みとしての社会的市場経済
- IV. 脱原発とエネルギー拡大と社会的市場経済
- V. むすびに:ドイツの事例からの示唆

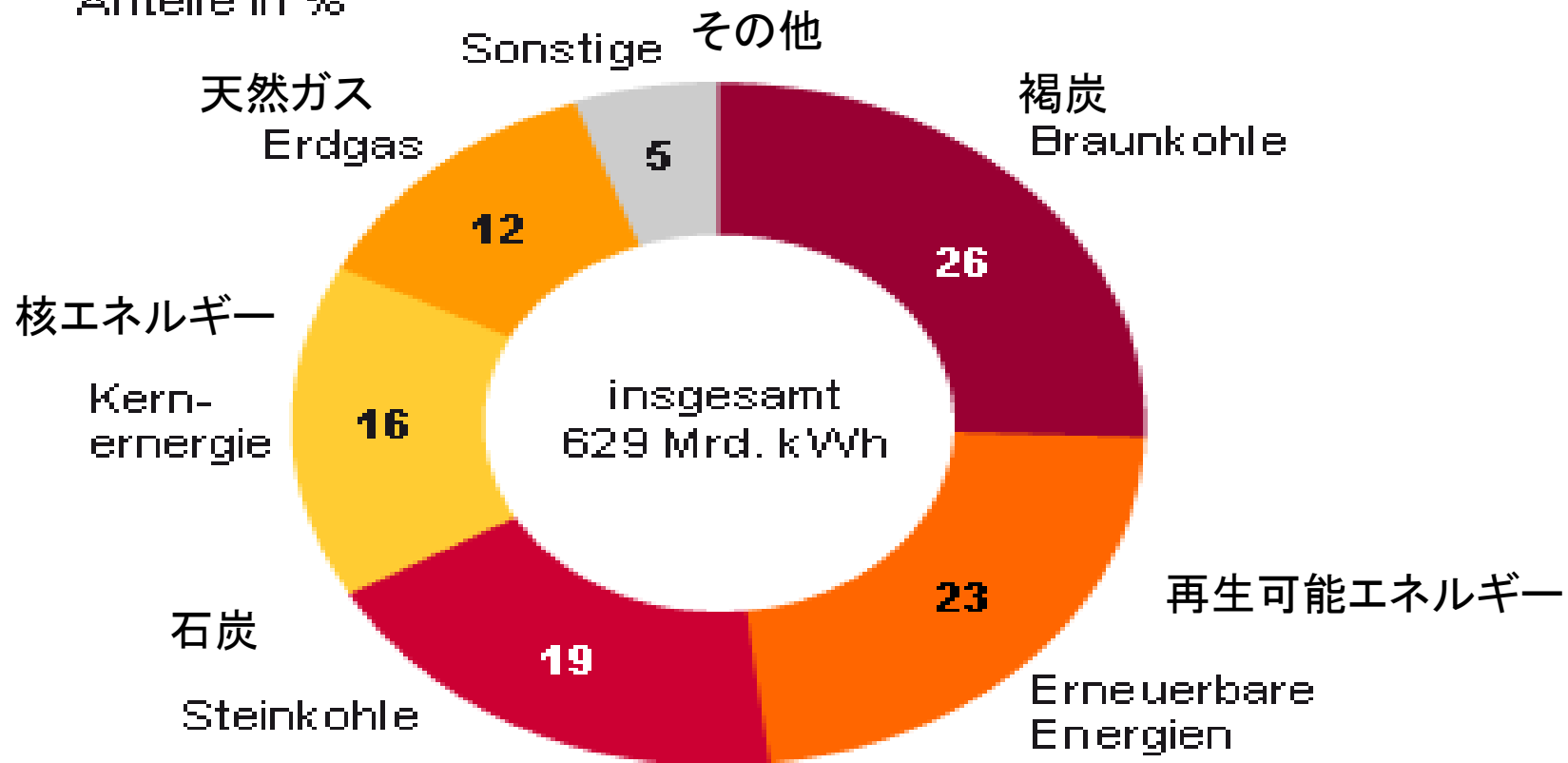
# I .脱原発と再生可能エネルギー拡大の実際

- ① ドイツにおける電力生産
- ② 原発比率の漸減と再生可能エネルギー

# ①ドイツの発電総量2012年

## Bruttostromerzeugung 2012

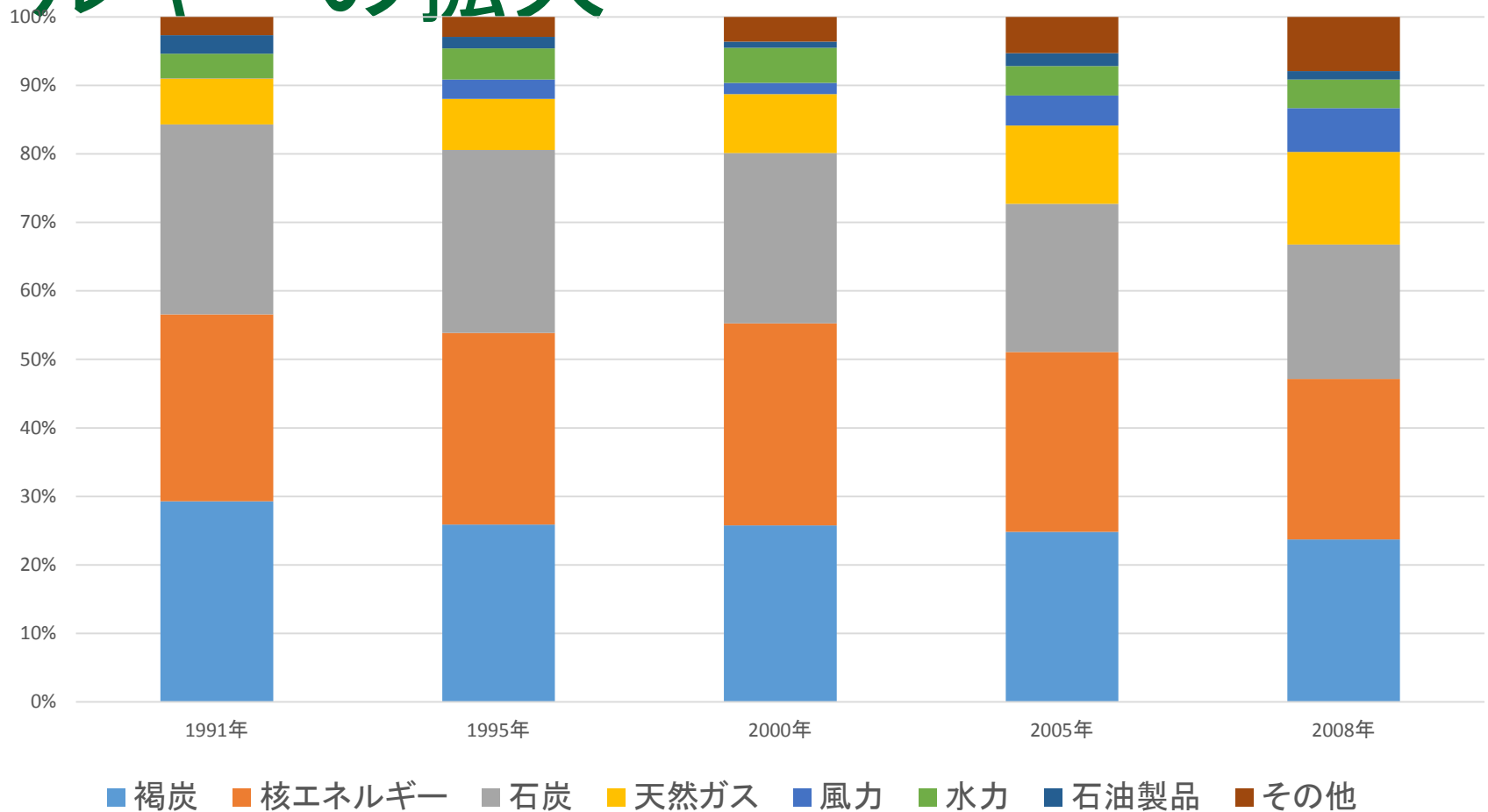
Anteile in %



Quelle: AGEE -Stat und AGEB.

© Statistisches Bundesamt, Wiesbaden 2013

## ②原発比率の漸減と再生可能エネルギーの拡大



出所) Statistisches Bundesamt

## Ⅱ.脱原発と再生可能エネルギー拡大政策の2回の画期

- ① 2000年における社会民主党と緑の党連立政権
  - a. 原子炉の段階的停止(2021年全廃)
  - b. 再生可能エネルギー優先法(Gesetz für den Vorrang Erneuerbarer Energien)
  - c. 背景としてのチェルノブイリ事故と市民運動
- ② 2011年メルケル首相の原発廃止延期政策から脱原発政策への転換
  - a. 倫理委員会の提言
  - b. メルケル首相の脱原発宣言(2022年全廃)
  - c. 原子力法改正と再生可能優先法の改正
  - d. 背景としてのフクシマと市民運動(緑の党の躍進)

# EEG(Erneubaren-Energie Gesetz: 2000)

1. 正式名称:Gesetz für den Vorrang Erneuerbarer Energien(再生可能エネルギー優先法)
2. 第1条:この法律の目的は、とくに気候・環境保護のためにエネルギー供給の持続可能な発展を実現し、エネルギー供給の国民経済的費用を長期的外部効果の編入を通じて低減し、化石燃料を傷めず再生可能エネルギーによる電力生産のための既述の発展を促進することにある。
3. 第2条の2(2011年改定):再生可能エネルギー比率
  - i. 遅くとも2020年までに35 %,
  - ii. 遅くとも2030年までに50%,
  - iii. 遅くとも2040年までに65%
  - iv. 遅くとも2050年までに80%

# 2011年5月30日の倫理委員会報告書

1. 正式名称「ドイツのエネルギー転換-将来の為の共同作業」(Deutschlands Energiewende – Ein Gemeinschaftswerk für die Zukunft vorgelegt von der Ethik-Kommission)
2. 基本方針
3. 協同組合と自治体の意義



# ドイツ倫理委員会報告からの抜粋(1):脱原発の基本方針

1. 近隣諸国の原子力発電所からの購入で簡単に代替しない
2. 化石燃料によって簡単に代替しない
3. 再生可能エネルギーの加速度的な拡充で代替しない
4. 簡単に電力の強制的合理化によって節電しない
5. 簡単に価格引き上げで補わない
6. 簡単に国の基準で法規できるようにしない。というのも、これは、民主主義の規則と社会的市場経済に適合しないからである。

# ドイツ倫理委員会報告からの抜粋(2):協同組合と自治体

1. 協同組合のような新しい経営モデルや、収益に対して所有権を持つ可能性などは、市民フォーラム、グループ、会合、未来ワークショップなどといった、直接的な参加形式と同様に、導入されていくべきである。また自治体の参加に関しては、電力網を拡充したときの営業税の加算を変更することによっても、改善していくべきだろう
2. エネルギー転換においては、自治体には重要な意味が帰属する。というのも、省エネ都市改造や、諸設備やインフラ網の計画策定や建設についての決定の多くは、地方自治体や地域において分散して行われなければならないからである

# 2011年6月9日連邦議会114回議会 でのメルケル首相の脱原発宣言

1. フクシマは核エネルギーに対する私の考え方を變化させた」(Fukushima hat meine Haltung zur Kernenergie verändert)
2. 4つの政策
  - i. 2022年までの原発全廃
  - ii. 最終処分場の法律提案
  - iii. 化石燃料の確保
  - iv. 再生可能エネルギー法の改正

# Ⅲ. 枠組みとしての社会的市場経済

## ① 社会的市場経済のルーツとその意味

- a. 第二次大戦後、エアハルトとミュラー=アルマックが提唱
- b. 競争秩序の維持とそこから生じる社会的損失の回避
- c. 公私混合経済と「生存配慮任務」

## ② 社会的市場経済の二つの立場

- a. 「社会」に重点を置く
- b. 「市場経済」に重点を置く

## ③ 社会的市場経済の特徴

- a. 連帯性: 社会保障、公的助成に見られる連帯性
- b. 集団性: 共同決定
- c. 多元性: 分権的自治団体

## IV.脱原発とエネルギー拡大と社会的市場経済

- ① ドイツにおける公営電力の位置
- ② 電力事業の再公営化
- ③ 脱原発転換・再生可能エネルギー拡大における公企業の役割

# ①ドイツ電力に占めるVKU(地方公営企業 連合)の比率

ドイツの供給電力量 478,517百万kWh

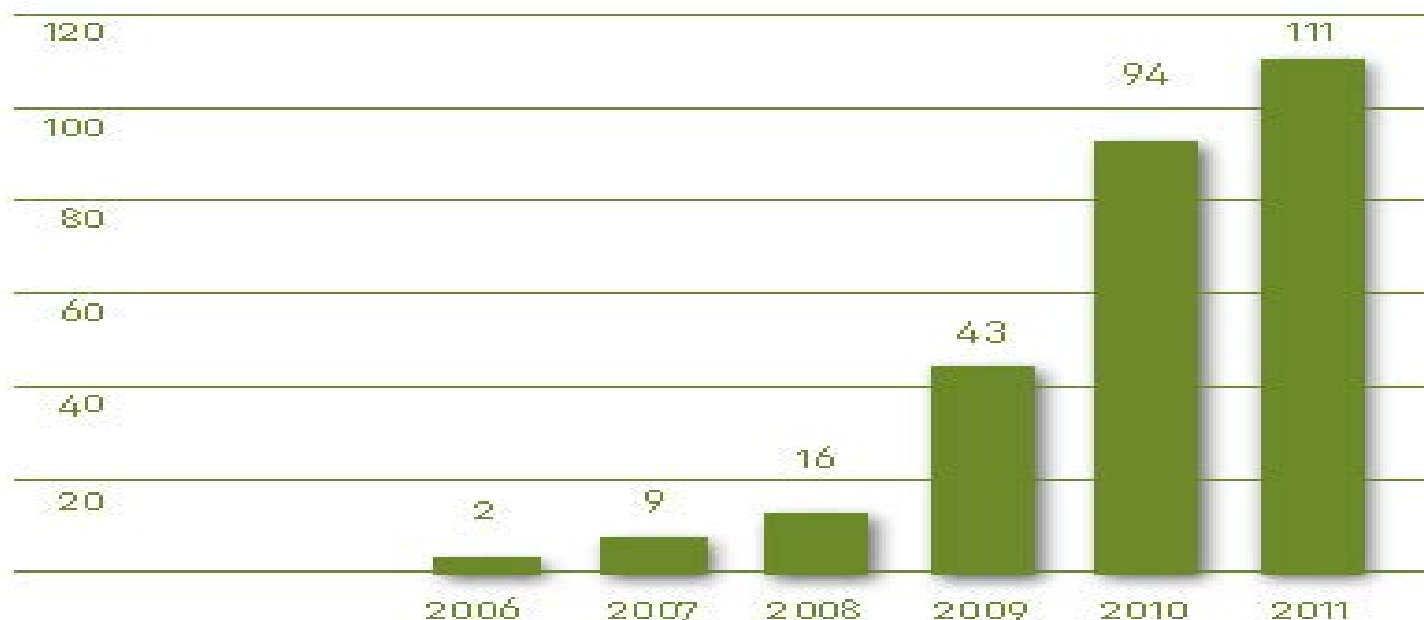
VKU企業供給量 234,936

比率 49.1%

出所)VKU,Kompakt 2012, S.7.

# 参考:ドイツにおけるエネルギー協同組合 設立数の推移

Genossenschaftsgründungen  
im Energiebereich



出所) Agentur für Erneubare Energie und DDV-Deutscher Genossenschafts- und Raiffeisenverband(Hrsg.)[2011, S.4]

## ②電力事業の再公営化の進展

- a. 2000年代の再公営化の形態
- b. 再公営化における市民運動の関与
- c. 再公営化の進展



## a.再公営化の形態

1. 民間企業に売却されたエネルギー供給企業の持分の買い戻し(ドレスデン市の都市供給事業やベルリン市の水道事業買い戻し計画)
2. 運営委託契約の終結(民間委託していた清掃事業やビル清掃事業を自治体の責任で再び実行することを決定したノルドライン・ヴェストファーレン州の諸自治体)
3. 自治体による事業認可取得(民間運営事業者との事業認可契約期限の終結後に電力・ガス・遠隔暖房の公共団体への返還を求めている市民団体「私たちのハンブルク・私たちの供給網」の運動)
4. 自治体企業を新設し,自由化市場で民間事業者と競争すること(熱供給企業ハンブルク・エネルギー[Hamburg Energie].

## b.市民運動の関与

1. 2002年ミュンスター市の住民投票:65.4%が公営を支持
2. 2008年ライプツヒ市で同市の都市供給企業の部分民営化に住民投票の87.4%が反対
3. 2011年ハンブルク市
  - i. 市民運動組織「私たちのハンブルク・私たちの供給網」(Unser Hamburg—Unser Netz), VattenfallとE.onの支配から供給網を公的団体に100%取り戻すことを目標に,市民請願署名を開始
  - ii. 2011年6月に11万6197筆の署名
  - iii. 2013年9月の連邦議会選挙実施日に,市民投票予定.

# c.ドイツにおける電力事業の再公営化の展開(1)

年	自治体名	事例			
1994	Bergkamen	地域間共同都市供給事業体Kamen-Bönnen-Bergkamen GmbH (GSW)設立 電力(1996)、ガス(1999)、遠隔暖房(2003)を認可企業から引き継ぐ	2001	Baden-Württemberg州の市町村の都市供給事業を統合して設立	badenova(Thüga AG45.9%, Freiburg32.8%, Offenburg7.1%とその他の自治体・目的連合)
			2003	Dortmund	Stadtwerke Dortmund
1994	Schönau	Elektrizitätswerke Schönau GmbH(EWS) 出資者は電線網購入者の協同組合 Netzkauf EWS eG	2005	Bietigheim-Bissingen, Mühlacker Schwäbisch-Hall Tübingen	KommunalPartner Beteiligungsgesellschaft mbH & Co KG(Energieversorgung Filstal GmbH & Co KG Stadtwerke Bietigheim-Bissingen GmbH Stadtwerke Mühlacker GmbH Stadtwerke Schwäbisch-Hall GmbH Stadtwerke Tübingen GmbH Technische Werke Friedrichshafen GmbH)
1995	Nümbrecht	Gemeindewerke Nümbrecht(RWEから送電網を買い戻す)	2005	Wolfhagen	Stadtwerke Wolfhagen(e.onから2006年に送電網を買い戻す)
1998	Sindelfingen	Stadtwerke Sindelfingen(Stadtwerke Schwäbisch Hall GmbH37.5%Stadt Sindelfingen37.4%EnBW Kommunale Beteiligungen GmbH25.1%)	2005	Wegmag	Schweriner Regionalversorger Wemagの保有株80%をVattenfall Europa AG がWegmag持分連合体54.9%に売却(Wegmag持分連合は合計74.9%を保有)、残りの25.1%はThuegaが引き継ぐ

## c.ドイツにおける電力事業の再公営化の展開(2)

2006	Landkreises Uckermark	UDG – Uckermärkische Dienstleistungsgesellschaft
2008	Eriskirch, Kressbronn, Langenargen, Meckenbeuern, Neukirch, Oberteuringen u. Tettnang	Regionalwerke Bodensee(自治体52%、TWF24%、AlbElektricitätswerk 24%)
2008	Schmalkalden	Stadtwerke Schmalkalden GmbH
2008	Springe	Stadtwerke Springe GmbH(ガスと電力、Springe市の50.5%、過半数出資、Braunschweiger Versorgungs-AG & Co. KG, Veolia Wasser GmbH, und der GWS Stadtwerke Hameln GmbHが各々16.5%, )
2008	Uetersen, Elmshorn	Stadtwerke Uetersen GmbH
2008	Leipzig	Stadtwerke Leipzigの住民投票で民営化阻止(市民運動団体Stoppt den Ausverkauf unserer Stadt)(投票総数17万621(住民の41%)賛成14万8761、反対2万503)

2008	Rüsselsheim	送配電網と街路照明運営をStadtwerkeが引き継ぐ
2009	Horb am Neckar	Statwerke Tübingenと共同でEnergie Horb am Neckar GmbHを設立
2009	Gemeinde Mainhardt Gemeinde Wuestenrot	Energieversorgung Mainhardt Wüstenrot GmbH Ko KG(両自治体が26.2%ずつ出資 Schwabish Hallが47.6%出資)
2009	Hamburg	Hamburg Energie GmbH(Hamburger Wasserwerke 100%出資、2001年にHEWがVattenfallに売却、再生可能エネルギー生産も行う、再自治体化の背景に、市民運動Unser Hamburg Unser Netzの運動があった)
2009	Müllheim, Staufen	Stadtwerke Müllheim Staufen GmbH
2009	Gemeindeverwaltung Umkirch	Gemeindewerke Umkirch GmbH
2009	Pfalz地区連合	Pfalzenergie(58のエネルギー供給企業)
2009	Freiburg	協同組合Energie in Bürgerhand (EiB)(1人500ユーロ出資、2010年3月現在250万ユーロ、4900人)
2009	Kommunen Olsberg, Bestwig und Meschede及びLipp市	Hochsauerland Energie GmbH (HSE)(2014年契約解除されるRWEの送電網の買い戻しを計画)
2009	Gemeinde Denzlingen	Energieversorgung Denzlingen GmbH & Co. Netz KG

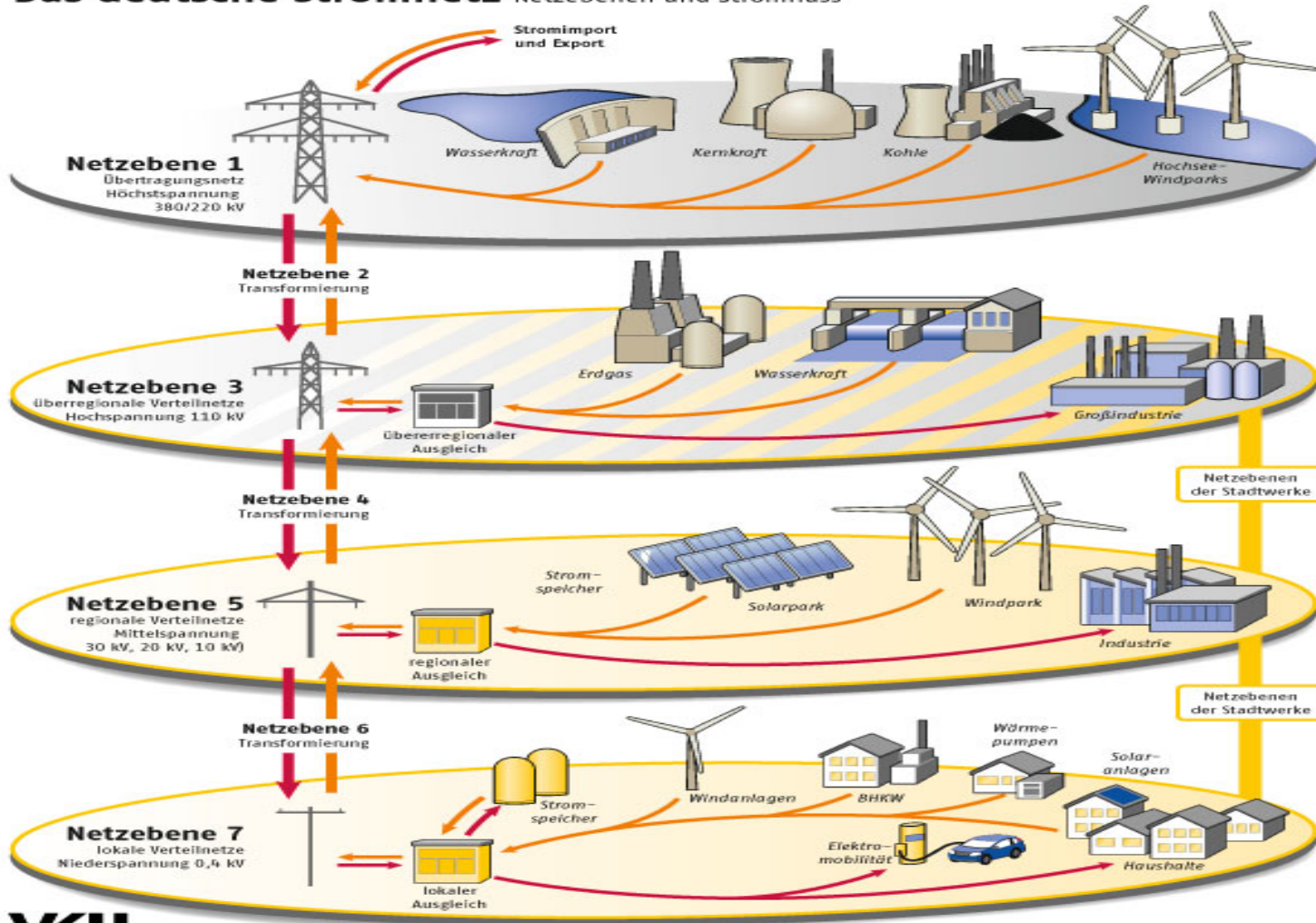
## c.ドイツにおける電力事業の再公営化の展開(3)

2010	Großalmerode	StadtwerkeGroßalmerode GmbH &Co. KG(Stadt Grossalmerode51%、Städtischen Werke AG Kassel49%)を設立し、E.ON Mitte社との認可契約解除
2010	Heiligenhafen	Stadtwerke Heiligenhafen(Eon Hanseとの間で送電接続を巡って係争中)
2010	Pulheim	Stadtwerke Pulheim GmbH (SWP)(Stadt Pulheim51% ,Bietergemeinschaft(Veolia Wasser Braunschweiger Versorgungs-AG, und Co.KG) 49%
2010	Landsberg	Stadtwerke Landsberg RWEから送電網の譲渡
2011	Münsterland、Olfenなど近隣自治体	Gemeinsame Stadtwerke Münsterland(RWEから営業権を引き継ぐ)
2011	Nordhessenの9自治体	Stadtwerke Union Nordhessen (Stadtwerke Bad Sooden-Allendorf・Stadtwerke Eschwege GmbH・KBG Kraftstrom-Bezugsgenossenschaft Homberg eG, Städtische Werke AG Kassel・Stadtwerke Witzenhausen GmbH・Stadtwerke Wolfhagen GmbHの統合)
出所)	Arenz,Horst[2010]VKU(Verband kommunaler Unternehmen)[2012]LBD-Beratungsgesellschaftt[2010]Terhorst and Hall[2011]および各事業体のWebsiteなどから作成.	

出所の詳細は、  
桜井 徹「公企業民営化における公と私」日本大学商学部「公と私」研究会編『公の中の私、私の中の公 現代社会の解剖』日本評論社、2013年3月、参照

# 参考:ドイツの電力発電・送電網の重層的展開

## Das deutsche Stromnetz Netzebenen und Stromfluss



### ③脱原発転換・再生可能エネルギー拡大 における公企業の役割

#### a. Badenova

1. バーデン・ヴュルテンベルク州の南西部における発電、送電、電力供給、ガス供給、水道供給、・地域暖房供給などの子会社を傘下に置く会社(フライブルク市などの関係自治体52.7%出資)
2. 再生可能エネルギー比率:78.6%(2011年)
3. BUNDの協力で風力同盟共同組合設立

#### b. EnBW (Energie Baden-Württemberg AG)

1. 原子力発電所を運営する電力会社
2. 2つの関係自治体出資会社が株式の93.3%
3. 原発廃止に同意

# むすびに:ドイツの事例からの示唆

## ① 日本の電力の問題点=課題

- a. 原発への固執: 再生可能エネルギー拡張の限界
- b. 発送給電一体の地域独占
- c. 私的独占(一部に自治体出資あり)

## ② 日本の課題に対するドイツからの示唆

- a. 再生可能エネルギー-依存と脱原発方向の明確化
- b. 小規模・分散型発電と発送電分離
- c. 公営電力の再評価と協同組合企業の方角
- d. 自由競争型ではなく、少なくとも社会的市場経済型の方角